

家庭発展 特別授業「バングラデシュってどんな国？」

9月14日（水）、特定非営利活動法人「国際エンゼル協会」の加藤圭二さん、檜垣保子さんにお越しいただきました。前半は、クイズなどを交えたバングラデシュの生活文化の紹介と子ども達への奨学金や学校建設、農村女性への識字教室などの現地への支援、それを支えるバザーや子ども食堂など日本国内での活動について講演していただきました。「貧しい人にお金や食べ物を与えるだけの支援は、その場限りでかえって怠け者になり、意欲を奪ってしまうこともあるが、教育支援はその人の財産になり、子どもたちの未来を守る。」生徒たちは自分たちとの違いに驚き、講演後の感想には教育の大切さを認識したという声が溢れていました。後半は民族衣装（サリー）の着付け実習でした。代表生徒による檜垣さんのデモンストレーションの後、洋服と違う着装に戸惑いつつも、自分たちで挑戦し、記念写真撮影を行いました。



親のない子ども達や貧困家庭の子ども達を預かり養育している「エンゼルホーム」、農村の識字教室、職業訓練所や女性自立センターなどを運営し、貧困から抜け出して自立できる子どもを応援しています。

本校 総合的な探求の時間のテーマでもある「SDGs」に関連する活動についても教えていただきました。



↓班で相談中

Q) これは何に使うものでしょう？
ヒント：現地は紙が貴重です



「髪？あつ、紙…」とピンとこない生徒達。水を入れるものまではわかったようですが、正解にたどりつきません。
A) トイレにて、水を入れて左手で洗う（日本でいうウォシュレットですね）



6mもあるサリー。色とりどり、様々な模様から選び、感染症対策のために調理教室の全体に広がって、美しいシルクのサリーを身にまといました。檜垣さんが着用されているのは日常着のサロアカミスです。



前回の授業では、感染症対策の上、バングラデシュ料理の調理実習・バングラカレー・ルティー・ドウトチャー（ミルクティー）
前々回は、映画「TRUE COST」を視聴し、事前学習をして臨みました。